

川でむすぶ



<1 事業報告>

- ①第6回夏井川かわくんだり
- ②夏井川沿い水辺ウォーキング
- ③第19回全国河川愛護団体交流会 I N桑名
- ④2019年の草刈・清掃活動の報告

<2 寄稿文>

10月台風豪雨被災について（4名の方から）

<3 募集案内など>

20年史の記事・資料・写真
川ばた会議（2～3月予定）のアイデア

新たな前進を期して

代表 橋本孝一

新年 明けましておめでとうございます。会員の皆様には、当会の運営に関しまして日頃よりご支援を戴きありがとうございます。

◆昨年10月の台風19号及び25日の豪雨では、夏井川水系の本川及び支川において、破堤ないし越水等により人的・物的に甚大な被害が出てしまいました。災害が発生してから既に3か月が経過していますが、未だ避難生活を余儀なくされておられる方も多くおられる現状ですが、一日も早く復帰できることを願っております。

◆当会は、今年で20周年を迎えます。設立趣意書（平成12年9月）によれば、「流域住民自らが、お互いの連帯の輪を広げながら、夏井川の治水・利水・河川環境のあり方について考え、提案し、行動していくことが、子孫からの付託に応える道であると考えます。」と宣言し、活動を開始しました。当会会報「川でむすぶ」の記事を創刊号から振り返って見ますと、各種ウォーキング、サイクリング、講演会、他団体との交流会への参加等の事業が展開されてきました。更に流域全体を視野に置いた組織として「夏井川流域の会」発足（平成19年9月）後は、流域全体を視野に置いた活動（一斉水質調査、川下り、川ばた会議、上下流交流事業、川での学習支援等）に発展してきています。これらの実績は、当会にとっては貴重な財産であり、更に継続発展させる必要があると考えます。

◆一方、今回の水害は、夏井川水系において「治水上の安全性をいかに確保するのか」という問いに対して、流域住民の立場から改めて調査・提案していかなければならないと思います。そのために必要な行動を起こしていくべき時です。

現在、当会会員は個人会員が約70名、団体会員9団体、賛助会員10社で構成されています。年次総会で決められた事業計画は、毎月開催されている世話人会で具体化し、会員の皆さんのご協力を戴きながら実践してきました。しかし、諸事業の計画・実践に参加して頂いている人数が少なく、活動の幅を広げることが出来ないのが実情です。現会員数は、流域内のいわき市内の約65,000世帯の1.5%未満です。今後、事業をさらに発展させるには、まだまだ、会員数が足りません。活動日は、休日の事業の他、学校支援等は、週日になります。それぞれの会員の実情に合わせて活動していただければと思います。現会員の皆さん、周りの方達にも当会の活動内容を紹介して、活動に参加して下さるよう呼びかけて下さい。そして、所期の目的に向かって大きく飛躍できる年にしましょう。

< 1 事業報告 > ①第6回夏井川かわくだい

田中博文

令和元年9月15日（日）いわき市平鎌田の夏井川親水公園で夏井川かわくだいを開催しました。毎年恒例行事で6回目となります。本事業は水質調査や水生生物調査だけでなく、色々な川あそび体験することを目的として実施しています。

9月の3連休のうちの最高の好天に恵まれ、参加者53名と大盛況でした。開会式で注意事項を説明し、実際に川で流れ・救助の体験、カヌー・ボート等を30分程度練習後、午前中1回・午後1回下流へ1.8km下りました。合間に笹舟競争、アクアボール、石重さ当て・きき水クイズを行ないました。

本事業はカヌー運搬やトイレ搬送など、多くの世話人が必要です。今年は子供たちが多く（嬉しい悲鳴ですが）一般参加の方々にも手伝い頂き、（毎年そうですが）無事ケガなく終えることができました。来年も楽しく遊べるよう頑張りたいと思います。



01開会式



02川流れ体験1



03川流れ体験2



04カヌー・ボート練習1



05カヌー・ボート練習2



06下流へ出発



07集合写真



08笹舟づくり



09笹舟流し1



10笹舟流し2



11石重さ当てクイズ



12きき水クイズ



13クイズ正解発表



14アケアホール準備



15アケアホール1



16アケアホール2

< 1 事業報告 > ②夏井川沿いウォーキング

橋本孝一

去る9月29日（日）、福島県主催、夏井川流域の会共催で、夏井川沿いウォーキング第一弾として、夏井川河口から上流に向かって夏井川沿いを歩きながら水辺沿いの景観や施設見学等を交え、50名の方々が参加の下、行なわれました。9:30、夏井川河口部左岸にある沢帯（ざわみき）公園を出発。河口堤防からの景観を楽しんだ後、（太陽光発電パネル）→（野鳥観察）→（北部浄化センターの見学、休憩）→（舟の渡し場跡、専称寺、河川改修の説明）→（河川改修の碑の説明）→鎌田親水公園に到着、昼食・笹船競争等 → 解散。

途中、落伍者もなく全員、7kmを完歩しました。秋の空気を胸一杯吸い込んでのウォーキングは最高です。次年度以降、水源地の仙台平ドリーネ（田村市：旧滝根町）まで、歩き継いでいきたいと思います。今回参加できなかった方、次回、企画時には是非ご参加下さい。



< 1 事業報告 > ③第19回全国河川愛護団体交流会IN桑名

佐藤雅子

2019年11月9日～11日、三重県桑名市で全国河川愛護団体交流会が行われました。10月の台風19号や豪雨の後だけに、被災したり災害対策で来られない方々が多々あり、例年より少人数となりましたが、山口、新潟、島根、東京、主催者三重、愛知そして私たち福島県勢6名が参加しました。

今年の企画は東海道五十三次唯一の海上路、名古屋熱田の宮宿から桑名宿までの「七里の渡し」から始まりました。なにしろ元和2年（1616年）からあるルートを船で行くのですから、弥次喜多気分で乗船。しかし今や2019年、江戸時代とは全く違う風景であろう名古屋港、工業地帯のタンクや建物、大きな外国船や豪華客船が見下ろす伊勢湾を、船頭姿の平井さんの案内でたのしみ

ました。2018年の台風で豊橋、京都、大阪、岸和田など被害に遭い、湾内の海苔の養殖がダメになったという現実も目の当りにしました。木曽、長良、揖斐の三川が集まる湾、穏やかで波静かなこの海面があつた伊勢湾台風で高潮となって濃尾平野を襲ったことが想像できませんでした。夜の懇親会では平井さんが着物に着替えて三味線演奏をしてくださったのはまたびっくり。次の日「六華苑」にて、意見交換会。昭和34年（1959）の伊勢湾台風から今年で60年、現地桑名では市民がその爪痕を訪ねたり検証したりしています。庄内川河川事務所の尾畑さんが基調講演で、濃尾平野の地図を示しながら、①1956年、濃尾平野のハザードマップを作っていた人がいた。その3年後に伊勢湾台風となり、地図を重ねてみるとその通りに浸水した（この地では高潮）。②川は元流れていた方に流れたがる。などの話をしてくださいました。現にいわきでも台風19号の被害に遭ったばかりだったので、身に染みました。山口の重中さん、中島さん、新潟の川上さんからも歴史的な貴重な実体験や地域政策が話され、地元の若い方々も加わって意見交換は活発でした。交流会は、生の声、地域の違い、体験の多さ、全国的な取り組みなどの情報が得られて有益だといつも思います。桑名のみなさんと別れを惜しみながら、来年の新潟行きを約束して解散となりました。



渡船



意見交換会

福島県勢は次に名古屋城に行きました。城内ではイベントがたくさんあって人出が多く、お城の中には時間的に入れなかったもので周辺を散策しました。戦国武将が活躍したところ、大きな自動車会社があり経済的にも豊かな大都市名古屋は、大勢の人がいるのに派手でなく堅実な街でした。その日は岐阜市に宿泊、夜の岐阜横丁研修（？）ではオジサン、オバサンの私たちですが、若者が気軽に飲食できる場所に行き、交流人口が増えている岐阜市事情、商店街が町活性化に力を入れている様子を見ることができました。次の日は白川郷、郡上八幡を大急ぎで回りましたが、川のこともまちづくりもまだまだ参考にしたい場所ばかりで、行きたいところが岐阜県にもたくさんあることがわかりました。

出会いエピソード【その1】名古屋駅で鉄道乗り換えの場所を通りすがりの高校生に尋ねて、教えられた通り私たちが歩き出し少し進んだところで、女子高校生が追ってきて、ていねいに教えなおしてくれました。複雑な道順なので旅人の私たちを心配してくれたのです。とてもうれしかった。【その2】名古屋城のお堀端を歩いていたら、すぐ隣に名古屋市長河村たかし氏がいて、思わず声をかけました。福島県勢には、さもさも以前からの知り合いのように接したT氏もいて、さすが。【その3】夜の岐阜横丁、イタリア料理店主の女性。岐阜のことをいろいろ教えてくれました。さわやかな笑顔が、作ってくれたおいしいピザの味とともに忘れられません。交流会+αの研修旅行はいつも有意義で、おいしいものをたっぷりいただいたような気分になります。



河村市長と



郡上八幡の整備された水路

交流会は来年で20回、20年目です。大勢で参加しましょう。

<1 事業報告> ④2019年の草刈・清掃活動の報告

佐藤忠

○ 夏井川河口親水公園

原則として、毎月第一土曜日、朝 7:30～2 時間ほど草刈を実施しています（6月以降では、6月1日、7月6日、8月3日、9月8日、12月8日）。

夏季は雑草の繁茂が激しく苦勞「しますが、刈り終わった後は、気持ちの良いものです。

12月8日は、草刈の後に、当会の船が10月の豪雨で流され移動していたものの係留していた紐の効果で比較的元の位置に近いところで留まっていたので元の位置に戻しました。夏井川の河口閉塞は解消され太平洋に注いでいました。



船を元の位置に戻しー安心



河口閉塞が解消していました

○ アリオス横の新川ひょうたん島

令和元年度は、4月6日、8月11日に実施しました。9月、10月は、雨天のため中止しました。

○ 夏井川防災ステーション

5月19日、9月14日に実施しました。いわき市河川課職員の方々も参加。感謝申し上げます。



新川ひょうたん島



夏井川防災ステーション

<2 寄稿文> 10月豪雨被災について

10月の台風19号による河川の氾濫では当会の多くの方が被災されています。今回、4名の方にご寄稿頂きましたが、今後、他の会員の方々にも御寄稿頂き、記録として残して行きたいと思っています。

○ 夏井川決壊箇所

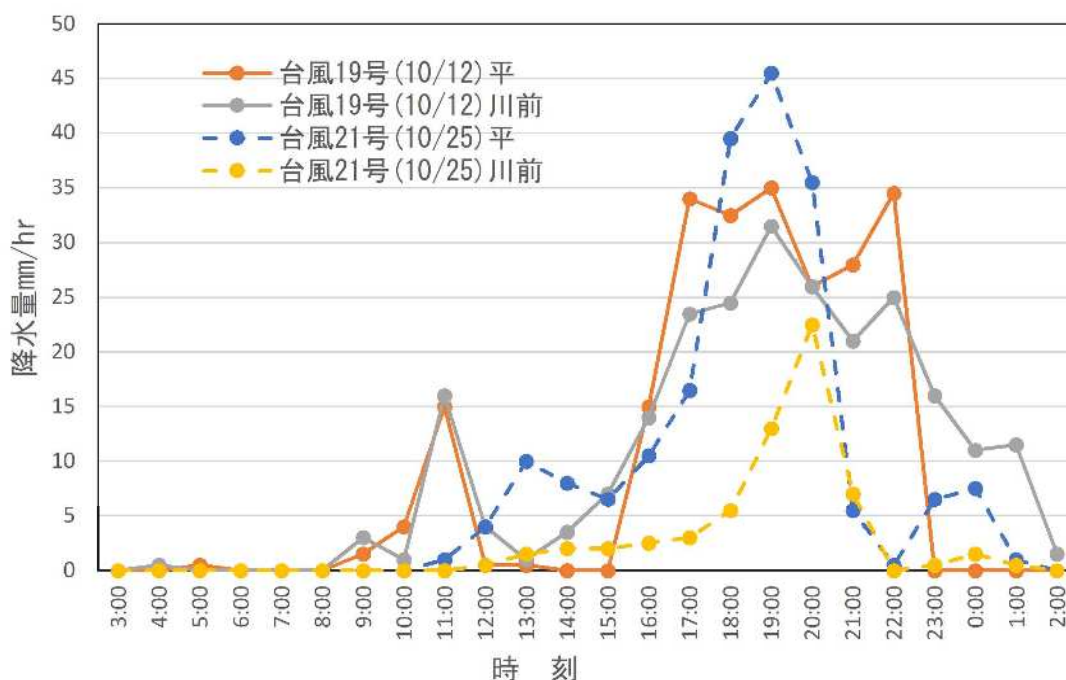
二級河川の夏井川は台風19号豪雨により下図の8箇所決壊しました。その他にも支川の好間川・茨原川で決壊・溢水・内水氾濫が発生しています。



○ 10月豪雨の降水量

10月には10/12 台風19号と10/21 台風21号の2回豪雨が発生しました。1時間降水量はおおむね40mm以下とやや多い程度ですが、10/12 台風19号豪雨では時間約30mm以上が6時間続いたこと、上流の川前でも降水量が多かったことが要因となり、河川水位上昇し決壊・溢水につながったと考えられます。後日の10/25 台風21号では豪雨時間が3時間と短く、同じようにあと1～2時間継続したら相当危ない状況でした。

10月台風豪雨 時間雨量グラフ



<2 寄稿文> ①台風19号の豪雨による被災手記

佐藤忠（平中平窪在住）

10月13日午前2時00分、トイレ廊下に浸水。玄関からの浸水です。床上10cm。

小川地区241mm、三和448.5mm（気象庁発表）。13日、中島町（⑤）、大念仏（⑥）、四左エ門（⑦）が決壊。好間川今仁井田、小川町の高萩・三島・関場決壊。

◆家の前の道路は濁流です（13日6:30）

中平窪竹ノ下堤防陥没（決壊箇所図中④）は、地下の空洞等が原因と考えられる。道路が激濁流の場となったことは想定されなかったことでした。



◆水没廃棄物整理（10月15日～）中平窪第二公園に

平窪地区の各公園は、被災家屋からの廃棄物で満杯。さらに夏井川堤防法面被災物で満杯の状態でした。（下左写真）

自衛隊災害派遣により廃棄物整理。第六師団災害派遣隊員の皆様。大型クレーンで整理（下右写真）、御苦労様でした。深く御礼申し上げます。

◆10月22日 17:05 水道通水。命の水、ありがとうございました。

◆自宅の床下消毒は、12月11日。いわき市により床下四方の通風孔からの消毒が実施されました。



<2 寄稿文> ②行政の適切な対応を望む

碓川寛（小川町在住）

小川町では、平成元年8月6日～7日にかけて台風13号によりもたらされた豪雨の影響で、夏井川本川の堤防が決壊・氾濫し（小川町両郡橋直下流部）、小川中学校等、大きな被害を受けています。そして、今回再び災害を受けてしまいました。今回は未曾有の雨量により引き起こされた“自然災害”だから仕方がないという意見もありますが、災害を受けた方々は、安心・安全な生活を営むために税金を納めています。被災された方々は、一日も早く元の生活に戻るよう必死に努力しています。今こそ、

行政が真心を込め、被災者との対応が求められていると思います。しかし、再建に向けての諸手続きが煩雑で、高齢者の方々は、支援申請等に困惑しているのが現状です。一人一人に対して、親切丁寧な行政として、余程の誠意ある対応をしなければ市民と行政との心が離れてしまいます。心に寄り添う精一杯の努力が求められています。



<2 寄稿文> ③台風19号と豪雨災害について

佐藤雅子（平在住）

2019年10月12日の台風19号、その後の豪雨で、いわき市は甚大な被害を受けました。私たち「夏井川流域住民による川づくり連絡会」が活動していた夏井川がひどかっただけに、大変なショックを受けています。自然災害は地球温暖化とともに、100年に一度が、毎年か、明日か、頻繁に起こるのではないかと危機感を抱いているのは、その後の出会う人々みんなの心配でした。現実を見て、これからどうすればよいのか、私が考えていることを挙げてみたいと思います。

1、台風、豪雨はいつ来るかわからない→ハザードマップは正しい。住む場所選定。
2、人が造るものはいつも完璧とは言えない(堤防は崩れる)。→しかし管理補修点検を常に行う。
3、行政には限界がある、当てにできない→自分が住んでいる地域内（区や隣組）で助け合い、行政と情報を共有する。

4、近年の気象状況の変化では防災は間に合わない。状況によって逃げるしかない。→逃げ道、避難路を確保、人々が逃げやすい道筋を地域の人たちと検証する。

5、道路を整備する。→これは行政にやってもらう。

夏井川にかかわっているからこそ、自然との対話が少しはできるのではないかと思います。

ひとたび洪水が起きると、地域が貧困や過疎化になることがあります。夏井川と上手に付き合うために以上のようなことをみんなで話し合い、行動に移していきましょう。検討事項として記してみました。（2019/12 記）

<2 寄稿文> ④台風19号により災害した

橋本孝一（平下平窪在住）

台風19号は、いわき地区では未曾有の降雨量となりました。平観測所の過去の記録を調べてみると、1977年9月19日に202mmの降雨量が記録に残っている過去最大雨量だったようですが、今回は、その雨量を上回る228mmの降雨量となり記録を更新しています。三和観測所では、449mmもの降雨量が記録されました。このため、夏井川流域内では、多くの箇所で堤防が決壊ないし堤防越流、バックウォーター現象等を引き起こしました。

◆拙宅は、下平窪鍛冶内に自宅（2階建）があり、床上40cmほどまで浸水しました。12日の夕方5時頃から雨が激しくなり、13日に日付が変わる頃まで降雨が続いていたようです。当日、2階で寝ていましたが、明方、屋外から「ゴトゴト」という物音で、ベランダから外を覗いて見ると、家の周囲は、既に濁水で覆われ、道路が川のような状態になっており、車も7割程度が水没している有様でした。

◆自宅1階は、年末までには、ほぼ復旧することができ、新年は、真新しい畳の上で迎えることができた事は幸運でした。この間、多くの当会の会員の方々、知人・友人、ボラン



自宅2階から撮影（10/13 早朝）

ティアの方々のご支援や励ましを戴き、ともすれば心が折れそうになる自分にとって心の支えにもなっており、深く感謝しております。

◆被災後、約2週間経過してからですが、地区の方と一緒に地区内や夏井川の決壊現場等を見て回りました。下平窪・中平窪地区内の家屋は、ほぼ壊滅的な被害を受けていました。特に、平窪地区だけでも4人（高齢者）の命が奪われたことは非常に残念です。夏井川本川沿いだけでも8箇所も決壊しており、好間川・新川も大きな痛手を被っていました。

◆いわき市が作成したハザードマップによれば、平窪地区は、「2m以上の浸水」が想定されていた地区です。近年の異常気象のことを考えると、今回のような豪雨が、来年も齎されるのではないかと、危惧を抱かざるをえません。短期・長期的な対応が迫られていると切実に感じています。

「平窪自然塾」の方達とも話し合い、ハード・ソフト面での必要と思われる点についての提言をまとめ区長に提案しました。提案内容を紹介します。

○ハード面では、①河川敷の樹木が繁茂し流れを阻害している → 樹木の伐採。②河川内の土砂の浚渫。③樋門の形状を流水阻害しないような構造にする。④堤防の補強（嵩上げ、法面の補強）。⑤真似井川への逆流を防止するため水門等の設置。⑥川だけでなく流域全体を視野に据えた対策（森林保全、水田の治水機能の活用）、⑦遊水機能を持たせる工夫。

○ソフト面では、①一人暮らしの方との連絡体制の確立。②災害時の緊急連絡体制の整備（サイレン、防災無線）。③車避難場所の確保。④一人一人の避難場所の確保。⑤地区として避難訓練に取り組む。⑥水害時に利用できる各種制度の説明会の開催。⑦夏井川の現状について、住民対象の現地観察会の開催。

◆今後、当会が率先して、流域住民の方々に呼びかけ、二度と同じような災害が起きないようにするには、どうすれば良いか、意見を出し合い、実践的に取り組んでいければと強く期待しています。（2020.1.5記）

<3 募集案内など> ①20年史の記事・資料・写真

当会は平成12年9月発足し、今年で20周年目となります。その節目を記念し20年史を発行する予定で動き出しております。

夏井川に係わる風俗や歴史の変遷、古い写真、皆さんの思い・意見など、一言でも構いませんので当会世話人に是非お知らせ下さい。

■20年史目次案

はじめに、1. 夏井川流域の概要、2. 夏井川流域NWの活動、3. 流域の会の発足と活動、4. 活動の思い出、5. 今後の発展に向けて、資料編

■期日予定 収集期限：令和2年4月末 発行：令和2年10月

【今回の豪雨にあたり、期限を延ばしました】

その他、20周年事業として「水生生物カード作成」「記念講演会」も検討しています。

<3 募集案内など> ②川ばた会議のアイデア

このたびの10月豪雨影響により、26時間連続水質調査、11月定例清掃などの事業を中止としました。特に10/18～/19に予定していた26時間連続水質調査は、これまで11年連続した事業でしたが中止となり残念に思います。（予定地は茨原川だったので実質不可能でした）

そこで、今年度の最後の事業として「川ばた会議」を2～3月に開催したいと考えており、会議の日時や内容など意見・アイデアをお寄せ下さい。

<事務局より>

■資材置き場等に係わる情報提供のお願い

当会の活動に係わる資材として水質検査用ポリタンク数十個、ゴムボート3艇、ボート船外機1個、アクアボール3個、水生生物採捕用網数十個、大型展示パネル数枚、その他備品など結構かさばる物が多く、橋本代表、事務局、他会員それぞれ個人で保管しています。

そこで、どこかに集約した資材置き場がほしいと考えています。理想としては、併せて会の拠点となる場として、「夏井川資料館」となるような場所も確保したいです。

つきましては、できれば夏井川からさほど遠くない場所に、空き倉庫、空き地、空き家などの情報があれば、事務局または世話人へ是非お知らせ下さい。

■橋本代表が今回被災した体験について発表会があります

いわき地域環境科学会で毎年実施している発表会（今年で31回）の中で、橋本代表が「夏井川本川沿い平窪地区を中心とした台風19号による災害の実態と今後の課題」というテーマで発表します。時間ある方は是非ご参加ください。

・日 時 令和2年1月19日（日）13:30～17:00

・場 所 パルシステム福島「みんなの交流館」 Tel)0246-43-1555

：いわき市常磐西郷町落合278（ヨークベニマル湯本南店から東へ600m）

・参加費 無料

～～～ 会員の皆様からのご意見・御寄稿をお待ちしております ～～～
(行事予定は下記ホームページでも案内しています)

【会報 第51号】 2020.1.11

発 行 : 夏井川流域住民による川づくり連絡会（略称:夏井川流域NW）

代表世話人: 橋本孝一

事務局 : 〒972-8311 いわき市常磐水野谷町亀ノ尾171地質内
田中博文 Tel)0246-88-8810 Fax)0246-88-8907

ホームページ : <http://blog.natsuigawa-karyu.net/> 夏井川流域で検索